

12/06/2010

アクセンチュア 中谷幸俊

1. 2003/04 年「企業の力をいかに防災に役立てるか」委員会の感想

課題：防災が企業価値の継続的向上へどこまで寄与するか？

コストから投資へ変身出来ないか？

衝撃的なミュンヘン再保険レポート（リスク×富）

非日常へは日常で対応する

人が動くのは楽しい事と儲かること

古き日本の村こそ防災の最良の地域モデル

阪神淡路大地震の死亡理由の大半は住居崩壊の圧死 耐震不足住居は 1400 万戸

阪神淡路大震災被災者/ライフライン企業の防災責任者/有識者/企業ヒアリング

- ・ 初動の対応が鍵
- ・ 被害あるなしの単純情報が貴重
- ・ 同時にあらゆる手を尽くすべき
- ・ 多様な情報取得方法の整備
- ・ 事前準備の大切さ
- ・ 時間の経過とともに変化する課題
- ・ 現地のマイクロ情報に価値あり
- ・ 安否確認で帰宅難民はレスキュー隊へ変身できる
- ・ 阪神淡路大震災でより高くなったライフライン企業の防災目標

検討課題

- ・ 災害緊急特区のモデル研究
- ・ 時間経過の伴い変化する課題と、企業力発揮への平時の活動との連携
- ・ BCP（事業継続）
- ・ 防災 CSR
- ・ 魅力ある地震保険
- ・ 売買賃貸家屋の耐震診断書義務化
- ・ 防災情報の包括的提供手段
- ・ 災害基金
- ・ 教育への反映

注目したい企業

- ・分散型水源システムのウエルシー
- ・軽量化によるビルの再生と耐震化
- ・防災ベンチャーのレスキューナウ
- ・柱をベルト巻きにし耐震性を安価で容易に強化

平時の企業活動の延長線上に「防災」がある社会

結論：「おもしろくて、儲かって、年々、国家の防災資産が充実していく」仕組みが出来上がることが「21世紀の日本の礎」になるに違いない。

(2004年9月広報ぼうさい掲載)

2. 2004/05年内閣府BCPガイドライン第一版

防災は経営者のテーマ

事業の三分の一だけを継続する覚悟を

まずは点検

3. 今回の委員就任によせて

この5年間の進捗の確認

次の5年間に必要なことの議論

- ・災害緊急特区の実証実験（仮説/時間経過と対応/仙台など）の実施
- ・経営者の関心度確認
- ・産業としての「防災」台頭